

自立支援連絡協議会報告



●要援護者の防災を考える会 研修開催

12月13日に開催しました。災害対応カードゲーム教材『クロスロード』をアレンジして、グループワークをし、参加者も消防署や区政協力委員、民生委員、当事者団体、福祉関係事業所、社協、行政等幅広いメンバーで学びを深め交流する事ができ、消防署や消防団からは丁寧な助言もあり学びの多い研修会となりました。

今回は、BCP（事業継続計画）を学ぶことも一つのテーマとして開催し、クロスロードゲームの後には、「ゆめの木タウン」の災害時個別支援計画や避難訓練の様子を紹介してもらい、「リサイクルみなみ作業所」には日々実践しているBCP（事業継続計画）について具体的な説明をしてもらい、事業所や地域の皆さんにもとても参考になるものでした。

BCP（事業継続計画）

自然災害などへの対応を定めた計画。事業活動を早く再開し、継続するために策定されるもの（コトバンクより）

では、研修で使用した問題を紹介します。

問題：あなたは、施設の職員です。
（※その立場になって考えてみてください）



Q：発災後3時間。電気・水道・通信は断絶していますが、建物はなんとか使える状態です。利用者が「家に帰りたい」などパニックを起こしています。職員数が足りず、何から対応していいか分かりません。

YES
（保護者が来るまで待つ）

どっち？

NO
（自宅に送る）

※質問にたいして、正解はありません。様々な立場で、様々な状況を想定し、意見や考えを共有する中で臨機応変に考え対応する力を身に付けていくことを目指しています。

実際の災害現場で、障害児者や高齢者は、日頃通いなれた施設等に行きたがる人が多く、発災後、早い段階で事業が再開されると当事者や家族はとても安心です。また、避難所は、決して過ごしやすい場所ではない事も多いため、事業再開は多くの人にとって安心・安全の確保にとっても大切な事だと思います。

1月は研修会の反省会・感想など話し合いました。

●児童の生活を考えるワーキング「みなみっこフェス」 12月25日開催

南区内の児童の通所事業所が集まり開催されました。当日は約100人の子ども達が、区役所の講堂いっぱいに、サーキット・ボールプール・創作（プレスレット作り）・エアトランポリンで楽しくあそびました。後半は人形劇。真っ暗な中ブラックライトに照らされた「トンカチくんとカナツチくん」。トントン、ギーコギーコと光と音の不思議な体験をしました。初めは暗闇が怖かったこどもたちも最後は夢中でした。

その後はエントツからサンタさん登場！！一緒に歌ったり踊ったり、楽しい時間を過ごしました。「いつもとは違う友達といっしょに大きなあそびをしよう」と若い職員が子ども達の笑顔を思いながら、事業所の枠を超えて計画・準備を重ねてきました。当日はその思いが通じ、子どもさん達の笑顔があふれた会になりました。子どもさん達にとっても、私たち支援者にとっても、すてきなクリスマスプレゼントになりましたね



1月は夜の交流会を開き、今後のみなみっこフェスの話などなど盛り上がりました。

●福祉関係事業所連絡会 高齢研修 12月7日開催

宝南デイサービスの見学に行きました。主に介護保険のデーサービスですが、基準該当の生活介護として障害の方も多く利用をされています。（南区には基準該当の生活介護事業所は10か所あります。）

現在利用されている方で、みのり共同作業所を利用しながら、宝南デイサービスを週に数回利用されながら利用されて見える方も見えます。障がい者の方も介護保険への移行をしていくにあたり、今まで就労を中心に生活されてきた利用者の方が、デーサービスの利用となる場合、戸惑いどう過ごしてよいか解らない方もいらっしゃいます。障害サービスと介護保険のサービスを併用しながら、次第に介護保険への利用をしていくことで利用者の方も安心して利用できるよいきっかけづくりになることも考えられます。

南区は高齢化率名古屋市1位で、障がい者の方が介護保険への移行に当たり、一層このような連携が必要になると考えられます。介護保険と障害サービスを一緒に考えるよい機会になりました。

12月は恒例の夜の交流会も実施しました。

●相談ワーキング開催状況

12月14日社会福祉法人 親愛の里 名古屋支援事業所 青木邦子より「人格障がいの特性と対応の仕方」を事業所の質問をもとにお話しいただきました。

1月8日は全国相談支援ネットワーク研究大会より「30年度に向けての方向性」について事業所の現状をもとに話し合いました。

今後の研修・イベント予定

今後お知らせします。